

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202718		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホーム 花ぞ野		
所在地	〒857-0021 長崎県佐世保市折橋町58-1		
自己評価作成日	平成 22 年 8 月 30 日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内中心部の高台で子供の遊び声なども聞こえる閑静な住宅街にあり、ALWAYS SMILE ~いつも笑顔で~ を理念に掲げ家庭的な雰囲気作りに心がけている。「主人公の日」を作り、本人の希望する場所へのドライブや外出などに出かけたりして、本人、家族ともに喜ばれている。地域の住民とはバーベキュー大会などで交流を図っており好評である。季節に応じてレクリエーションや季節感のある食事を提供している。近隣の保育園児の来訪や、不定期でボランティアの方が来られ歌や芸の披露をされたり、カラオケ大会を開催している。併設の特別養護老人ホームとも連携してリハビリ、おくんちやクリスマス会などの合同行事も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム花ぞ野は介護福祉関係の事業所や保育園を多角的に展開されている法人の一事業所で特別養護老人ホームに隣接している。ホームのリビングや廊下は広くリフト浴設備がある浴室や大型のエレベーターがあり、支援の様子にも安全に配慮したホームであることが伺える。常勤、非常勤を問わず全職員が積極的に研修に参加し、自己研鑽に努め笑顔での支援を心がけられている。重度化により意思疎通がやや困難な入居者もいるが、職員のスキンシップにより微笑まれる光景も見られた。特別養護老人ホームや近接の法人内診療所との連携により入居者とその家族が安心を得られている。地域との交流もたゆまぬ努力により年々広がっている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 22 年 9 月 21 日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、作り上げた理念をステーションやフロアに掲げ、毎日の朝礼で唱和し意識づけ、理念を共有し実践できるよう取り組んでいる。	「いつも笑顔で優しい気持ちで接します」を理念の実践に向けた介護目標の一つとし、職員の笑顔は入居者の笑顔という気持ちをもって日々実践することにより、入居者とさらにより関係が築けるようになった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より地域の方々との挨拶を交わしたり、行事などに積極的に参加を呼びかけ、また、ボランティアで行事を企画して頂いたりして地域との交流を行っている。	バーベキュー大会や法人内で行われている「納涼祭」等により着実に地域の方との交流を深めている。職員はホームの周りの清掃や公園の草取りを行い、地域に貢献している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも行事に参加して頂き、交流を図ることで認知症の方への支援などの理解をして頂く事で協力を得ている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者や民生委員、利用者のご家族などにも参加して頂き、行事や現在の状況報告、意見交換などでサービスの質の向上を目指している。	運営推進会議は2ヶ月に一回開催されている。今後地域生活の中で協力をいだけそうな方々にも会議参加依頼を考ており、運営推進会議を情報交換の場として有意義に活かせるよう取り組みを広げつつある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者にも運営推進会議に出席しており、事業所の実情・取り組みを伝え、日頃より連絡を取って協力関係を築いている。	市の担当者には運営推進会議に参加していただくことにより、ホームについて理解をいただいている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束委員会」を設置しており、外部研修への参加や勉強会を実施して職員の知識を深め確認し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	車イスからのずり落ち防止の新しい試みが、身体拘束にあたらぬか話し合うなど、理解と排除に向けて努力している。懸案であった一階ホームの入り口も職員の見守りによって安全に配慮し、時間帯により施錠は解除している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やその報告、勉強会などで職員の知識を深め、日頃から虐待に繋がる行為がないか自分の行動を省みること、利用者の様子に変化がないかなど注意を払い心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで制度等について職員の理解を深める機会を設けている。また、制度の必要な利用者には社会福祉協議会と連携して活用し支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約等の説明は十分に行い、起こりうるリスク、医療連携体制等説明し利用者や家族の不安を解消出来るよう努めている。また、不明点がある場合等はいつでも聞いて頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の面会時等は意識してコミュニケーションをとり利用者や家族にも要望を表しやすい関係作りを心掛けている。また、直接寄せられた意見・苦情に関しては、朝礼等で情報共有し、反映できるよう努めている。	家族訪問時の会話の中で、例えば「リビングで過ごす時間を長くしてほしい」との具体的な希望や意向、入居者の健康状態についての疑問等を伺うことで、サービスの向上に役立っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開催し、職員の意見や提案など言いやすい環境にあり、法人内に労働衛生委員会を設置し、環境改善に努めている。また、月1回の幹部会などで代表者が職員の意見を聞く機会もある。	ケア会議における業務改善の最近の一例としては、朝食準備の業務軽減に伴い勤務体制の見直しを図る提案がケア会議において話し合われた。見直しの結果として夕食時の人的配置に余裕が出来たことで十分な支援が可能となり業務改善に繋がった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で統一した個人評価表を代表者に年1回提出し、職員は自らを振り返り目標を立て、代表者は職員の意見を知ることができ、個々の努力や勤務状況を認め、希望部署への異動や研修へ参加させるなど向上心の持てる配慮をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は力量や希望に応じ、必要な研修に年1回以上参加できるよう努めている。また、スキルアップのため法人内での勉強会を月1回開催している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは研修等で情報交換したり、各種協議会など交流する機会があり、ネットワーク作りや連絡体制作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談において、生活状況、心身の状態等を把握し、どのような支援が必要か本人や家族、職員とも話し合い不安なく利用して頂けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の意見にも耳を傾け、不安・要望を聞き、どのような支援が適切かなどを話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談等で状況を確認し、話の中からのような支援が必要かを汲み取り、本人・家族と話し合うようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事は職員と一緒に協力して行うようにし、一方的な押し付けにならないように心掛けている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に本人の最近の様子や要望等伝え、家族と協力して共に本人を支援するような関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人たちが大切にしてきた人々や場所とのつながりなどを続けていけるよう馴染みの場所などへの外出支援や交流に努めている。	買い物など希望に応じた支援に努めているが、入居者の重度化に伴い、意向の把握が困難な場合も増えつつある。必要があれば入居者と家族との外出の支援も対応するとしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションをとりやすいよう配慮し職員が関わっていく中で、利用者同士が支えあえるよい関係が築けるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などに移られても互に行き来し、情報交換したりして継続的な関係が続いている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情、生活の様子などから意向を汲み取り、本人の希望に沿えるよう心掛けている。	意思疎通が困難な方に対しては、家族などからの聞き取りのほか、問いかけから出てくるキーワードとなる言葉や表情の観察から推察し意向把握に努めている。	日常の気付きから汲み取ることが出来た入居者の希望や意向をケアプランに反映できるように、職員全員による今後一層の取り組みに期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談などから以前の生活歴やサービス利用の経過だけでなく、本人や家族との会話などからも過去の暮らしぶりを把握し、これからの支援に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から現状把握すると共に、介護記録や申し送りなどから情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とのかかわりの中で意見や思いを聞き、必要に応じて見直したり定期的にケア会議を開いて介護計画の作成をしている。	前年度の目標達成計画に従ってケアプランとサービスの実践内容をキーワードによって結び付けるという記録方法に変更した。それにより実践の検証が容易になり、チームによるケアプラン作成に活かせるようになった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や変化、気づきを介護記録に記載し、全職員が情報を共有でき今後の支援の実践や介護計画の見直しに活かされるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、家族の付き添いが難しいときには職員が付き添うなど、本人や家族のその時の状況に応じて柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流のある近隣の保育園や学校、ボランティアの方に施設行事に参加して頂いたり、逆に呼ばれたり、日々の暮らしを楽しみ豊かなものになるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の施設診療所の医師による定期的な往診のほか、協力医療機関の受診や以前からのかかりつけ医の受診も支援しており医療機関との連携をとっている。	入居者のほとんどが主治医は法人内診療所の医師であり、入居者は月に2回の往診を受けている。併設の医療機関ということで迅速な対応が可能であり、医療面では安心が得られている。他科受診支援もおこなっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状況・気づきを伝え相談する環境にある。また、併設の特養の診療所とも連携しているため、常時対応できる体制がとれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には本人に関する情報を提供し、定期的に訪問して本人の不安やストレスの解消に努め、早期退院できるよう病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の可能性のある場合は医師が本人や家族、職員、看護師を交え、今後の方向性や終末期のあり方などを話し合い、本人や家族の医師を尊重するよう努めている。	医療行為が必要となる場合には家族の希望もあり隣接の特別養護老人ホームへ移行することが多い。入居時、また入居者の状況変化時には家族に来ていただき話し合いを持つようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもと、研修や勉強会などを通じ応急手当や初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に避難訓練を実施しており、近隣の方々には災害時の緊急避難場所としての施設提供や火災時の支援を呼びかけている。	年二回の避難訓練をおこなっており、夜間想定での避難訓練も経験がある。隣接する特別養護老人ホームへも避難できる。避難経路はシンプルで広く確保されている。	夜間の対応は災害対策のうち最も重要な課題の一つであることから、例えばケア会議時においてシミュレーションによる確認を行うなどといった反復訓練にも取り組んでいかれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。また、理念にも掲げて毎朝唱和している。	接遇の研修やケア会議を通して職員は理解を深めている。常に自分の身になって考えるように、言葉かけは親しみのある丁寧語で行うように心がけている。また個々の入居者の気分を害す言葉を使わないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や表情などを察知し、自己決定ができるような声かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの基本を作り、その中で希望や体調などの観察を行いながら気持ちを尊重し個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考え利用者とともに楽しく衣装選びができるよう意思を尊重した支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査のもとメニュー表を利用者とともに考えたり、栄養バランスにも配慮している。また、職員は同席し、同じ食事を摂っている。	居室での食事を好まれる方にも対応している。可能な方は食後の後片付けを手伝っている。行事食の際にはお品書きを添えるなどして、雰囲気作りも工夫して外食の気分を味わっていただいている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病に応じた食事量や水分量を個別で記録している。また、介助が必要な方は水分・栄養が確保できるよう支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態が把握できるようにその人の能力に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、状況に合わせた誘導や介助を行い、自立に向けた支援をしている。	適切な声かけ誘導に努め、日中はほとんどの入居者がトイレかポータブルトイレを使用されるよう支援している。夜間帯は足元の安全などに配慮してオムツ使用の方が多い。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維や乳製品を取り入れたり、水分摂取量にも注意し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を曜日分けしているが本人の希望や状態に応じて柔軟に対応できるようにしている。	週二回の入浴日としているが、希望により数名の方が毎日入浴している。拒否傾向がある方には入浴日に限らず声を掛けいつでも対応している。排泄時に衣服や身体を汚してしまった場合も、随時対応して清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、個々の希望や状況を配慮し、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに保管し、薬の目的や副作用等の内容を全職員が理解できるようにしている。処方の変更があった場合には体調変化の観察と報告に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯物干しなどの役割を楽しく行えるよう心がけ、嗜好品などの買物への外出支援をしたりして気分変換を図り、豊かな日々を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ本人の希望に沿って外出の支援に努めている。また、家族と一緒に買物や食事等へ出かけられている。	近隣のコンビニエンスストアでの買い物や、散歩を支援している。また日常的な外出が難しい入居者には気候が良いときにホームの周りで外気に触れていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に対しては家族の協力を得て少額を所持し本人が使ったりできるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどのやり取り、電話の取次ぎや本人自ら電話したり、家族や友人との関係をつなぐ支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、季節や行事にあわせた飾りつけや行事の写真などを掲示している。また、テーブルやソファの配置を工夫している。	車イスの入居者が多いこともあり、安全性が配慮された広くシンプルな共用空間となっている。照明は穏やかな明るさで落ち着いた雰囲気をつくっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブルセットとソファを置き、気の合う利用者同士でくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との相談の上、本人が居心地良く過ごせるよう、使い慣れた家具や好みのもので持ち込んで思いおもいの配置にしたり、各個人が生活しやすい居室作りに配慮している。	カーテンではなく障子が使われた和風の趣のある部屋に小さめの家具や仏壇、家族の写真などを持ち込み、自分らしい落ちつける空間とされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は車椅子を自走し自由に動けるスペースを心がけ、通路に物を置かない等、安全な環境づくりに努め、各居室にも分かりやすいよう目印や表札をかけるなど一人ひとりの自立に配慮している。		